

若者の声を聴く交流会を開催しました

その1 認定更新記念交流会

テーマ:「若者の声を聴き、地域の課題について考える」

開催日:2025年8月31日(日)午後

会場:OKBふれあい会館 展望レセプションルーム

ぎふハチドリ基金の通常総会に合わせて、認定更新を記念した交流会を開催しました。

話題提供者として、NPO法人仕事工房ポポロ理事長の中川さんと、ポポロの若者に、不登校やひきこもりの問題について対談をしていただきました。不登校を経験した若者の当時の想いを聴き、大人や社会がどうあればよいかを考えました。

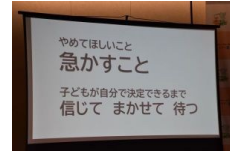
ゲストの江崎岐阜県知事も、感想とご自身の体験をお話されました。

<参加者の感想から>

- ・「まともな問いをかけすぎ」のは、子どもだけでなく「大人に対してもそうだなあ」と思いながらお話をお聞きしていました。のびのびと暮らし、働き、学ぶことができる世の中にしていくために自分も頑張らなければと思いました。
- ・一人一人が違っていることが当たり前だと認識できている社会ができていることを願います。平均点的な発想は捨てていかなければならないと感じました。個性を見出す意識を持ちたいと思います。
- ・これからも生きつらさを感じている子ども達のために頑張ってください。不登校の子を持ったことのある父親として反省することが多くありますが、子どもの将来を信じて見守っていきたいと思います。
- ・不登校やひきこもりのひとたちのことを表面的にわかっているつもりになっていた自分に気づきました。

子どもが自分で決定するまで「信じて任せて待つ」忘れないようにしたいと思います。

・ひきこもり・女性・LGBT・障がい者etc様々な困難が個別にクローズアップされがちですが、「誰かにとって生きやすい社会は違う他の誰かにとっても生きやすい社会なんだと思うことが大切だと思います。」



その2: 応援団交流会

テーマ:「20才のヤングケアラーが語る 社会やおとなに知ってほしい事！」

開催日:2025年11月30日(日)午後

会場:ハートフルスクエアG 研修室50

現在、こども食堂や学習支援などの活動をしている人や、市職員、民生委員、これから活動を始めようとしている人などさまざまな立場の人に参加いただき、元ヤングケアラーの若者の体験を聞き、グループ交流をしました。

内容は、取材に来てくれた中日新聞の井上記者が、右のような記事にしてくれました。

<参加者の感想から>

・自分もヤングケアラーだったのかも？と今回参加いたしました。体験談をお聞きしながら、共感できる部分が多々あり貴重なお話でした。グループ内で、今やっと他人に当時の事を話せることができるようになったんだと、自分の成長を感じました。

・大変な家庭環境の中で、ヤングケアラーになっていても相談するような状況だと子ども自身にはわからず、また子ども食堂や学習支援など、支援策の話聞いても、わからない・知らないから怖くて行けなかったという話を聞いて、支援は子ども自身が安心できるような伝わり方が必要だと言うことを改めて認識しました。

・とても正直にリアルな話をお話し頂き、ありがとうございました。壮絶な経験だったと思いますが、「両親を恨んでいない、恨んでも仕方ない！全てが成長になった。」と語る姿が、凜としてとてもかっこよかったです。

若いケアラーどう支援

岐阜県民生委員ら 経験者から聞く

家族の介護や世話を日常的に担う若者「ヤングケアラー」を支える社会について考える交流会が30日、岐阜市橋本町のハートフルスクエアGであった。県内在任の元ヤングケアラーで20歳の大学生・ミナさんが参加した。

ミナさんはうつ病を患う母に代わり、小学生のころから家族4人全員の食事作りなどを担うようになった。仕事が忙しな父は数千円を机に置いていき、ミナさんに買い物や家事を任せたり。中学生までは家庭環境の苦しさを感じて過

（仮名）が自身の経験を語り、子どもや若者を支える団体を支える岐阜市のNPO法人「ぎふハチドリ基金」が主催。民生委員や子ども食堂の運営者ら約50人が参加した。

元ヤングケアラーの女性（仮名）と子どもの居場所について語り合う参加者ら。岐阜市橋本町のハートフルスクエアGで

12月1日中日新聞 朝刊



こうしたため、周囲の大人に心配されることもなかったという。「子ども食堂は名前を聞かれて通報されたら怖くていけなかった。子どもが自分で判断して行くのは難しい」と振り返った。高校生になり、大学に通うためにアルバイトでためたお金が、勝手に家計につき込まれていたことが

判明。このことをきっかけに18歳で実家を離れ、若者のための自立援助ホームに入所した。大学に進学し、今は一人暮らしをしている。同じような境遇の子どもの必要支援について「誰も行ける居場所がある」と、伝わりやすい形で子どもに知らせられるかが大切」と語った。

(井上京佳)

NPOのための遺贈寄付セミナー

「遺贈寄付」は、寄付者、寄付の受け手となる団体、地域社会のすべてにメリットがある仕組みです。人生最後の社会貢献として「遺贈寄付」を考える人は増えてきています。しかし、受け手となるNPO側の知識がないと、その想いに応えることができません。全国で遺贈寄付を推進している専門家を講師にお呼びし、「遺贈寄付」について学ぶセミナーを開催します。

日時 2026年2月13日(金)13:30~16:00

会場 みんなの森ぎふメディアコスモス かんがえるスタジオ
(岐阜市司町40-5)

講師 山北洋二さん(一般社団法人全国レガシーギフト協会共同代表)

内容 ・遺贈寄付とは ・遺贈寄付の現状
・遺贈寄付受け入れのステップ など

定員 100人 参加費 無料

主催 認定NPO法人ぎふハチドリ基金

協力 NPO法人ぎふNPOセンター

申込み方法 右のQRコードからお申し込みください。

締切 2月10日



<個人の寄付金控除について>

ぎふハチドリ基金への寄付と応援団会費は、寄付金控除の対象です！

☆認定NPO法人や公益法人等への寄付金や賛助会費は、寄付金控除が受けられます！

年末調整をされた方も、確定申告で、さらに税金が戻ってくる可能性があります。

☆2025年1月~12月に、ぎふハチドリ基金に寄付金や応援団会費をいただいた皆様、令和7年(2025年)分の確定申告に、ぎふハチドリ基金の「寄附金受領証明書」をお使いください。(他の認定NPO法人や公益法人等への寄付金と合算できます)。

詳しくは、国税庁ホームページをご覧ください。 <https://www.nta.go.jp/>
令和7年(2025年)分の確定申告の期間は、2026年2月16日~3月16日です。

☆2026年度助成事業の募集について

2026年度助成事業の募集が4/1から始まります。
今年は助成メニューの一部と申請方法が変わります。
詳しい内容は、3月上旬にホームページで公開します。

